

福岡城に天守閣を
— 城のある都市復活元年!! —

お城だより

2009年1月
No.20



多聞櫓 (写真提供: 福岡市教育委員会)

「前進」

黒田家第十六代

黒田 長高



待しております。

近年は各地で黒田如水・長政関連のイベントが行われるようになり当家と致しましても大変喜ばしいことと感謝しております。特に昨年は五年ぶりに姫路において「黒田サミット」が開催されましたが、福岡からもたくさんの方が訪れ、黒田官兵衛の足跡を大河ドラマ化しようということで意見が一致したことで大変盛り上がり、ゆかりの地の人たちとの交流が深められました。

また秋には福岡市博物館において「黒田長政と二十四騎」展が開催され、官兵衛の時代からの黒田家とその家臣団の足跡が詳しく解析され展示されました。そしてここでも黒田家ゆかりの地の多くの人々が訪れたと伺っております。この展覧会においては官兵衛・長政だけでなく他の藩主及び家臣達についても詳しく描かれており当家の足跡を知って頂くには大変良い企画で私自身も大変参考になりました。

折りしもこの展覧会の終了直前に市による福岡城址、下の橋大手門の復元工事が竣工し、まるで当会のテーマのひとつでもある「福岡城に天守閣を! 城のある都市復活」実現へ向けた扉が開かれた様でもあります。そして本年は市民の皆様のご協力のもとでその実現の為に一步でも前進できる年となるよう願っております。

新年明けましておめでとう
ございます。NPO法人「福岡
城市民の会(略称)」も発足五
周年を迎え、理事の皆様、会員
の皆様のご尽力により益々意
欲的な活動をされることを期

平成二十一年度
事業計画

一、四月六日
観桜の宴

二、五月三・四日
福岡市民の祭り
「博多どんたく」
福岡城演舞台の開催

三、十月二日
観月の宴

四、「お城だより」の発刊
(No.21
～
No.24)

五、福岡歴史観光市民大学の
平成二十一年度開催

六、六端城めぐり五巡目の実施

七、「新たな公」への継続作業

八、会員募集と事務局の強化

古代官道



民加
市参

鴻臚館・大宰府を結ぶ古代ハイウェイを探る
——古代官道ロマン——

一三〇〇年前に律令国家によって造られた幹線道路網「古代官道」は、奈良・京都と大宰府・鴻臚館が拠点でしたが、全国六三〇〇キロ、道幅二mの直線道路という、驚くべきスケールでした。二本あった大宰府への道が、今の高宮通りと筑紫通りです。その調査は今まで教育委員会や学者の方々に委ねられてきましたが、地域の市民が、専門家の方々の指導のもと、このロマンあふれる「古代官道」を、素人ながらも、言い伝えなどをもとに調査・研究したり、楽しい活用方法などを提案しよう、という趣旨の取り組みです。「新たな公」のコミュニティ創生支援モデル事業」として、十一月皮切りに二月まで、予想以上の市民の反響と参加で、興味あふれるイベントが目下進行中です。

臨時理事会報告

平成二十年十二月十二日(金)
午前十一時 タカクラホテル福岡におきまして臨時理事会を開催いたしました。

石井理事長を議長に議事進行し、左記のとおり一～三号議案が承認されました。

議題

一号議案

- 平成二十年度事業中間報告に関する件
- ①追加事業「新たな公」について
- ②公的並びに社会的な諸団体よりの依頼・委託事業の発生に関する一部定款の条文の補完の件

二号議案

- 平成二十年度事業中間報告に関する件
- ①会員の現況報告の件
- ②財務中間報告(平成二十年度事業実績)の件

三号議案

- ①お濠端会議の開催の件
- ②平成二十一年度予定事業定例継続事業(案)

「市民参加の
古代官道調査・活用事業」

市民フォーラム

市民フォーラム
十一月三日(月・祝)
参加者二百名

市民フォーラムin福岡(セミナー)
十二月三日(水)十八時半～二十時半
参加者百九十名

市民フォーラムin太宰府(セミナー)
十二月十一日(木)十四時～十六時
参加者百四十名

シンポジウム

平成二十二年二月十五日(詳細検討中)

成果報告書をつくりまします

盛会裡に終了

「古代官道」探索
フィールドワーク開催

鴻臚館・博多から大宰府への二本の古代官道(水城西門ルート・第一～三回、東門ルート第四、五回)を専門家の解説付きで歩きます。

第一回	第二回	第三回	第四回	第五回
十一月十五日(土) 水城西門跡・春日公園遺跡・ 先の原遺跡・奴国の丘歴史資料館など	十一月二十二日(土) 三宅廃寺跡・推定石瀬駅・鴻臚館跡など	十一月二十九日(土) 水城西門跡・前田遺跡・朱雀大路跡・大宰府政庁跡など	平成二十一年一月十日(土) 大宰府政庁跡・国分尼寺跡・国分寺跡・水城東門跡など	平成二十一年一月二十四日(土) 福岡市埋蔵文化センター・板付・那珂各遺跡群・推定美野駅など

盛会裡に終了

この取り組みは、国土交通省のモデル事業で、NPO 鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会と、NPO 太宰府ボランティアネットワーク歩かんな太宰府の共同事業です。

福岡城探訪

忠之と黒田騒動

藤 金之助

忠之が大々名の息子として、また徳川家康の孫として甘やかされて育ち、乱暴な行いも多かったことは父長政に不安を抱かせていた。長政夫人も同意見で藩主の座は弟の長興に譲ることにして、忠之には二千石の田地を持つ百姓か、一万両の資本で商人になるか、または千石の知行で僧侶になるか、いずれかを選ぶように申付ける。

忠之も驚くが後見役で筆頭家老の栗山大膳は筋が通らぬと大反対、重臣の嫡男たちを西公園沖の鶴来島に集め、一同切腹の覚悟で長政に嘆願書を出した。長政もこの決意に動かされ忠之に家督を譲ることを承知した。

元和九年（一六二三年）十月、黒田忠之は福岡藩二代目藩主となる。若干二十二歳であった。忠之は坊っちゃん育ちとはいえ決して愚かな君主ではなかった。成長するにつれ、幼少の時から手を取り足を

とるようにして教育してくれた十一歳年上の栗山大膳の存在が煙たくなってきたのも自然の成りゆきであったらう。

大膳にも家柄が良く、頭の良い人でありがちな見識張る性格があったようである。

また忠之には藩を維持するため大胆な藩政改革を急ぐ必要があった。そのため武断派を自認する老臣たちを退け、文治派の側近、倉八太夫らを筆頭に高禄を与えて重要な藩政を任せた。勿論、大膳にとっては倉八らは主君をたぶらかす君則の姦でしかなかった。この険悪な空気の中かで「合子の兜事件」が起る。

如水は臨終を悟り、愛用の合子の兜を大膳の父利安に与えた。その後この兜は恐れ多いからと主家に返上されていたが、それを忠之が倉八に与えた。これに激怒した大膳は満座のなかで倉八を面罵して兜を取

りあげた。この事件で忠之と大膳の確執は決定的となり、世にいう黒田騒動と発展してゆく。

忠之に謀叛の企てありと訴へた大膳の訴状は幕府直々の調べとなったが、生母大涼院などの陰の力もあり、忠之は無罪、領地は安堵された。大膳の真意も藩を思つての智略とされ、南部藩お預けという寛大な裁定となった。

一滴の血も流さず藩の混乱を防ぎ安泰へと導いたこの事件も、権力の内部闘争のため、庶民の憶測や噂がふくれあがり「箱崎釜破故」などの発行で怪談仕立ての波乱万丈の話となり、空蒼上人やお綱さんが登場してくる。この本のことを新聞人で作家の福本日南も「全然架空の俗小説、半文銭にもならぬ」と切り捨てている。

福岡藩は危うく廃絶を免れたが、ショックを受けた忠之は騒動後、人が変わったように幕府に忠勤を励み、西公園に東照宮を建立する。

島原の乱には一万八千の兵を率いて出陣し軍功をたてる。また幕府の命で長崎警備につくなど大役を果たした。

また深く神仏を尊崇し、桜井神社を造営し、鎮国寺の五仏堂を寄

贈したり数々の実績が残されている。

忠之は承応三年（一六五四年）二月十二日、福岡城内で亡くなった。五十三歳であった。墓は彼が帰依し本堂なども修復した真言宗の東長寺にある。祖父、父にくらべて短命であったのは三十年にわたって大藩を維持してゆかねばならなかった心労が重なったためであつたらう。



黒田騒動の芝居絵。「筑紫巷談浪白縫」国周画（早稲田大学演劇博物館蔵）

バスハイク

黒田親子と二十騎 ゆかりの史跡探訪



第二回

平成二十一年三月二十一日(土)
黒田家・九州最初の拠点中津城

第三回

平成二十一年四月十八日(土)
朝鮮出兵・肥前名護屋城と陣屋

第四回

平成二十一年五月十六(土)
九州の関ヶ原(大分国東半島/別府)

第五回

平成二十一年六月二十日(土)
九州の関ヶ原(隈本城/宇土城)

第六回

平成二十一年七月十八日(土)
海の守り若松城と黒崎城

第七回

平成二十一年九月十九(土)
国境に築きし鷹取城と支藩直方藩

第八回

平成二十一年十月十七(土)
益富城と小石原城と左右良城
平成二十一年十一月二十八(土)
三奈木黒田家と支藩秋月藩

お申し込み先

(株)西日本新聞旅行 担当 高卒
TEL 092-711-5518
FAX 092-711-1969

会員の皆様のご参加お待ちしております。

表紙 福岡城の多門櫓

【多門櫓】

昭和四十六年に国の重要文化財に指定されている、江戸時代の建造物です。

南二の丸の南西隅にある二重二階切妻造り隅櫓とそれに接続して、桁行三十間分続く平櫓です。

一般に多門櫓は防備のための長塀で、平素は倉庫などに利用されていました。

また、建物の軒先を支えている方杖と端隠板(はなかくし)いたで垂木口(たるきくち)を隠し、武者窓の外には突き揚げ板をつけた工法は、福岡城の特徴とされ古式を留めた城郭建築の美しさを備えています。



【南二の丸】

本丸の南側方面の守りを固めるため、黒田二十四騎の武将が城代を勤めていました。ここには天守閣に次ぐ大きな南三階櫓や御門続櫓や生捕櫓がありました。

さらに南西には、今でも見ることが出来る南隅櫓・多門櫓・西隅櫓があります。

新規会員名簿

(平成20年12月10日現在)

正会員(個人)

岡田 崇一 田川 誠治
柴山 俊夫 牧瀬 英喜

一般会員(個人)

猪野 敬一郎

一般会員(団体)

(株)加美家製菓

お城だよりNo.19でご紹介すべき方々を当会事務局の手違いによりまして今回ご紹介させていただきます。深くお詫び申し上げます。

編集後記

夢の実現は可能でしょうか？
福岡城跡に天守閣の復元という夢を描いて四年余の歳月が流れました。
新年を迎えるにあたって、より一歩でも夢の実現へ近づくための知恵を出さなければなりません。事業の多様な活動は、ともすれば夢が遠のくのではないかと、いささかの懸念を抱きながらも前進していると信じております。
五年目を迎える節目の年に、肝に銘じ気持ちを引き締めて諸々の事業に取り組んでまいります。皆様の温かい応援をお待ちしています。

編集・発行:

鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

住所:

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15
読売福岡ビル7階

TEL:092-716-8238

FAX:092-716-8254

HPアドレス:

<http://fukuokajokorokan.nngo.jp/>

E-mail:

fukuokajo@tos.bbiq.jp

デザイン・印刷:(株)セブンプリンティング